



サービス説明書

VMware Horizon™ Cloud Service® with Hosted Infrastructure

最終更新日：2017年2月5日

サービス説明書の英語以外の翻訳版は便宜のために提供されており、本サービス説明書は英語版によって規制されます。

© 2014-2017 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品は、米国及び国際的著作権法及び知的財産法によって保護されています。本製品は、<http://www.vmware.com/download/patents.html> のリストに表示されている1件または複数の特許の対象です。

VMware は、米国及び/またはその他の法域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。本書に記載される他の全ての商標及び名称は、それぞれの企業の商標です。

「VMware」、「当社は」または「当社に」とは、お客様の注文の請求先住所が米国である場合は、デラウェア州法人である VMware, Inc.を、お客様の注文の請求先住所がその他の国である場合は、アイルランド法に基づき設立され存続する会社である VMware International Limited を意味します。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

目次

1. はじめに.....	4
1.1 サービス ポータル.....	8
1.2 追加情報.....	9
2. サービス業務.....	10
2.1 サポート.....	10
2.2 サービス プロビジョニング.....	10
2.3 災害対策とディザスタ リカバリ.....	11
2.4 監視.....	11
2.5 インシデント及び問題管理.....	12
2.6 変更管理.....	13
2.7 セキュリティ.....	13
2.8 イメージ テンプレート.....	14
2.9 テンプレートのアップロード.....	15
3. 事業運営.....	16
3.1 注文及び請求.....	16
3.2 アドオンのキャパシティ.....	17
3.3 更新.....	17
3.4 停止及び再使用可能性.....	18
3.5 契約解除.....	18
3.6 契約の中途解除.....	19
付録 A - 注文.....	20
付録 B - 提供される機能と、別途購入可能な機能の概要.....	28
付録 C - Horizon Cloud のゲスト OS の互換表.....	29
付録 D - Microsoft 社のライセンスの推奨.....	30

1. はじめに

VMware Horizon™ Cloud Service® with Hosted Infrastructure (「Horizon Cloud」または「サービス提供」)は VMware のクラウド サービス ファミリであり、デバイスの種類や場所を問わず、仮想デスクトップ及びアプリケーションをエンド ユーザーに提供します。VMware Horizon Cloud は、Horizon Cloud Desktops、Horizon Cloud Apps、及び Horizon Cloud Graphical Desktops (現在はベータ サービス) の 3 つの異なるワークロード オプションを提供します。

標準サービス モデルのオプション

Horizon Cloud の標準サービスでは、お客様は Horizon Cloud Desktops 及び Horizon Cloud Apps の容量を 1、12、24、または 36 か月のサブスクリプションでご購入いただけます。サブスクリプション期間中は、デスクトップ及びホスト型アプリの仮想マシン (VM) を、サブスクリプションで購入した最大容量に達するまでいつでもプロビジョニングできます。**Standard Desktop Capacity** (「SDC」) の「ユニット」には、1 vCPU、2 GB vRAM、30 GB ハード ディスク、20 storage IOPS が含まれます。お客様は、1 つまたはそれ以上の SDC ユニットを使用する事前定義済みのモデルに基づいて、デスクトップやホスト型アプリケーションの仮想マシンインスタンスをプロビジョニングできます。たとえば、100 個の SDC を 12 か月間のサブスクリプションで購入したお客様は、その 12 か月間中はいつでも、1~100 台の Value Desktop 仮想マシン、または 1~50 台の Professional Desktop 仮想マシン、または 25 台の Premium Desktop 仮想マシン、またはさまざまなモデルタイプの仮想マシンを混在させたもののプロビジョニングができます。お客様は、プロビジョニングタスクを満たすために十分な SDC ユニットを所有している限り、事前定義済みのあらゆるデスクトップ モデルを使用して仮想マシンをプロビジョニングできます。

標準サービスの Horizon Cloud Desktops と Horizon Cloud Apps は、次の 5 種類の SDC のサービス モデルから選択できます:

- **Value Desktop** : 1 個の vCPU、2 GB の vRAM、30 GB のハード ディスク、20 IOPS を提供します。
- **Professional Desktop** : 2 個の vCPU、4 GB の vRAM、60 GB のハード ディスク、40 IOPS、及び Soft3D の機能をエンド ユーザーに提供します。
- **Premium Desktop** : 4 個の vCPU、8 GB の vRAM、120 GB のハード ディスク、80 IOPS、及び Soft3D の機能をエンド ユーザーに提供します。
- **Performance Desktop** : 8 個の vCPU、16 GB の vRAM、240 GB のハード ディスク、160 IOPS、及び Soft3D の機能をエンド ユーザーに提供します。
- **Hosted Apps Server** : 8 個の vCPU、16 GB の vRAM、240 GB のハード ディスク、160 IOPS、及びターミナル サービスと公開アプリケーションの機能をエンド ユーザーに提供します。

全てのモデルの仕様は固定されたもので、変更はできません。

アドオンのストレージは、App Volumes (Application Stacks、及び User Writable Volumes の保存用) や User Environment Management (設定とユーザーのプロファイルを保存) などの高度な機能を使用するために必要です。アドオンのストレージは、ユーティリティ サーバーの仮想マシンに、1 つの追加のディスク マウントとして割り当てられることもできます。ユーティリティ サーバーの E:/ ドライブの最大サイズは 12 TB に制限されています。個々のハード ディスクが 1TB よりも大きい

場合、もっとも大きいハード ディスクよりも大きな単位でストレージを購入する必要があります。単位は、1、2、4、8、及び 12 TB です。

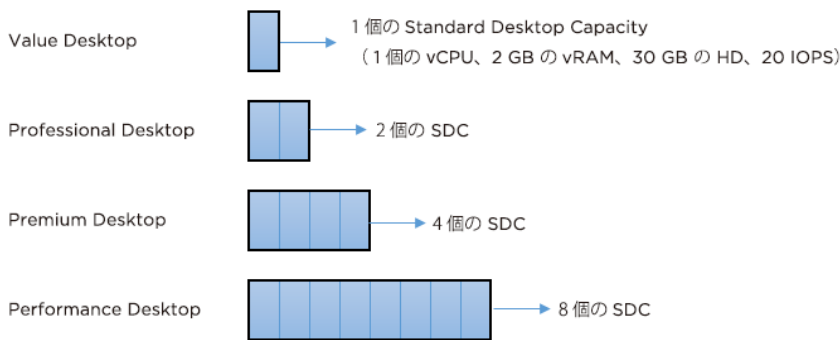
お客様は 1 TB 単位で追加のハード ディスクをご購入いただけます。ただし、既存のハード ディスク（ユーティリティ サーバーの E:/ ドライブなど）は拡張できません。

全ての仮想マシンの OS のライセンスと使用（Windows クライアントやサーバー OS など）について、お客様は Microsoft 社のライセンスのディストリビューターから購入した、自身のライセンスを使用する必要があります。サポート対象のゲスト OS と Microsoft 社のライセンスガイドの詳細は、付録 C と D をご覧ください。

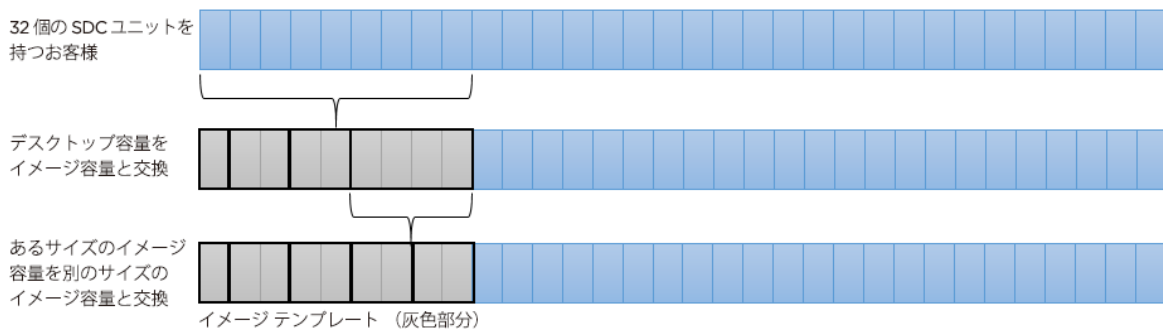
サービス提供を使用するための VMware Horizon のデスクトップとモバイル クライアントの使用は、別々のライセンス条件が適用されるものとします。

全ての標準サービス オプションには、仮想デスクトップとホスト型アプリケーションの基盤として利用するためにそれぞれ 60 GB のハード ディスクのイメージ テンプレートが 10 個含まれています。お客様は、Standard Desktop Capacity を追加のイメージ テンプレートへと変換することができます。イメージへの変換に必要な Standard Desktop Capacity の容量は、イメージのハード ディスクのサイズに直接比例します。たとえば、お客様が 60 GB の C:/ ドライブを持つ 5 個の追加のイメージ テンプレートを必要とする場合、10 個の Standard Desktop Capacity ユニットの、60 GB のハード ディスク サイズの 5 個のイメージ テンプレートに変換するよう要求することができます。また、お客様は、あるサイズのイメージ容量を別のサイズに変換することもできます。たとえば、30 GB のテンプレート 6 個を必要とするお客様は、60 GB のイメージ 3 個と交換するよう要求することができます。

デスクトップ モデルの図



デスクトップのキャパシティをイメージへと変換



標準サービスのオプションは全てデフォルトで、VMware High Availability のクラスター、ワークロード トラフィック分離のためのレイヤー 2 ネットワークの分離、専用のストレージ ボリューム、及び専用のデスクトップ管理インスタンスを備えた、専用のコンピューティング サーバーによってデプロイされます。各サービス インスタンスは、VPN なしのリモート アクセスのためにパブリック IP アドレスでデプロイされます。デスクトップ及び公開アプリケーションには、VMware Horizon View クライアント経由による直接アクセス、または View Client とクライアントレスの HTML5 (Horizon Blast プロトコル) を使用して、Horizon Cloud Desktop Portal を経由してアクセスできます。

Graphical Workstation サービス モデルのオプション (ベータ版)

負荷の高いグラフィックのユースケースを想定した、仮想グラフィック プロセッサ (vGPU) 機能を備えたデスクトップ仮想マシンのプロビジョニング用に、**Graphical Workstation Capacity** のユニット (GWC) も購入することができます。GWC ユニットには、4 個の vCPU、16 GB の vRAM、120 GB のハード ディスク、2 GB の vGPU メモリー、及び 80 storage IOPS が含まれます。

- **ProfessionalWS** は、4 個の vCPU、16 GB の vRAM、120 GB のハード ディスク、2 GB の vGPU メモリー、及び 80 IOPS を提供します。
- **PremiumWS** は、8 個の vCPU、32 GB の vRAM、240 GB のハード ディスク、4 GB の vGPU メモリー、及び 160 IOPS を提供します。
- **PerformanceWS** は、16 個の vCPU、64 GB の vRAM、480 GB のハード ディスク、8 GB の vGPU メモリー、及び 320 IOPS を提供します。

GWC のデスクトップ モデルは全て、前述の SDC のデスクトップ モデルと同様に動作しますが、例外として、技術的な制限により、VMware High Availability のクラスターはサポートされていません。

Horizon Cloud App Volumes (ベータ版)

Horizon Cloud は、VMware の App Volumes テクノロジーによって、コンテナ化されたアプリケーションの使用をサポートします。別途ダウンロードが可能なアプリケーションを使用して、コンテナ化されたアプリケーションのバンドルを作成できます。バンドルは、その後インポートされ Horizon Cloud のデスクトップで使用できるようになります。Windows 7 及び Windows 10 のアプリケーションは App Volumes によってサポートされています。

また、エンド ユーザーがアプリケーションをインストールして、ノンパーシステント デスクトップ (流動デスクトップ) に個人データを保存できるようにするために、ユーザーがインストールしたアプリケーション、ユーザー データ、及びユーザーのプロファイル情報 (オプション) を保存できるコンテナ化されたディスク スペースである、User Writable Volumes を App Volumes によって定義できます。

App Volumes の使用では、お客様が使用する予定の容量の追加のストレージを購入する必要があり、その際は以下の用途でどの程度のストレージを使用するのかを考慮に入れます:

- 1) コンテナ化されたアプリケーション
- 2) エンド ユーザーに割り当てられる User Writable Volumes
- 3) インポートされたアプリケーションのバンドルのコピー全てを保存するための、専用のローカルのユーティリティ サーバーでのファイル共有である、App Volumes のインポートのファイル共有

デスクトップの C:/ ドライブ ストレージでは、App Volumes の機能は使用できませんのでご注意ください。

App Volumes の可用性と計画に関しては、VMware のエンド ユーザー コンピューティング (EUC) のセールス エンジニアにお問い合わせください。

Horizon Cloud User Environment Manager

Horizon Cloud User Environment Manager (User Environment Manager) は、Horizon Cloud の Windows 環境全体に、ユーザー プロファイルのカスタマイズと動的なポリシー設定機能を提供します。User Environment Manager は、Horizon Cloud テナント内の個別のユーティリティ仮想マシンとしてインストールする必要があるほか、システムとユーザーの設定の保存を有効化するためにネットワークでのファイル共有を必要とします。

User Environment Manager の使用には、お客様が使用する予定の追加のストレージ容量を購入する必要があります (通常ユーザーあたり 125 MB ~ 150 MB)。

User Environment Manager の使用の計画に関しては、VMware のエンド ユーザー コンピューティング (EUC) のセールス エンジニアにお問い合わせください。

Horizon Cloud の仮想マシンの種類

Horizon Cloud は、フル クローン及びインスタント クローンをベースとしたプロビジョニングの使用による、仮想マシンの作成をサポートしています。どの種類にも、メリットとデメリットがあります。基本イメージの作成時に、お客様に選択していただきます。イメージは、両方ではなく 1 つの種類での使用に対してのみ作成可能で、プール内にプロビジョニングされた仮想マシンの種類は、選択したイメージに依存します。

インスタント クローンの仮想マシンは非常に短時間 (数分) でプロビジョニングされますが、イメージに関して次の制限があります。

- インスタント クローンのイメージは、イメージの公開時に選択した単一のドメインにのみデスクトップ インスタンスをプロビジョニングできます。複数のドメインをお持ちの場合は、たとえイメージの内容が同じでも、ドメインと同じ数のイメージが必要となります。
- Windows 7 及び Windows 10 のゲスト OS のみがサポートされています。
- モニタ数は最大 2 台で、ディスプレイの最大解像度は 2560 x 1600 ピクセルです。
- 専用のデスクトップ エクスペリエンスを提供したいとお考えの場合、インスタント クローンのデスクトップと、App Volumes 及び User Environment Manager との組み合わせがもっともよく使用されます

フル クローンの仮想マシンのプロビジョニングはより低速で、従来の専用/パーシステントのデスクトップ エクスペリエンスとしての VDI (仮想デスクトップ インフラストラクチャ) の経験があるユーザーには馴染みがあるものです。フル クローンの仮想マシンは、Windows Server の VDI デスクトップや、リモート デスクトップ セッション ホスト (RDSH) のホスト型アプリケーション サーバーとしても使用できます。

サービス オブジェクト

サービス提供には、次のオブジェクトへのアクセス機能が含まれています:

- **ドメイン バインディング**: Active Directory、管理者ロールと権限、及びエンドユーザーのグループを設定するために、Horizon Cloud Administration Console で管理される場合があります。
- **イメージ テンプレート**: Horizon Cloud Administration Console で管理される場合があり、仮想マシンのクローン元の基本イメージとして使用されます。
- **デスクトップ プール**: 仮想マシン、リモート デスクトップ セッション ホスト (RDSH) の公開デスクトップ、及び RDSH の公開アプリケーション用の、グループ オブジェクトです。プールによって、仮想マシンの作成時にどのモデル、イメージ、仮想マシンの種類、及びその他のポリシーを適用するのかが指定されます。デスクトップ仮想マシンは、プールの一部としてのみ作成可能です。
- **仮想マシン (VM)**: エンド ユーザーがアクセスするコンピューターです。
- **RDSH の公開デスクトップ (セッション)**: ホスト型の RDSH サーバー上で実行される公開デスクトップであり、エンド ユーザーによってアクセスされます。
- **RDSH の公開アプリケーション (アプリ)**: ホスト型の RDSH サーバー上で実行される公開アプリケーションであり、エンド ユーザーによってアクセスされます。
- **App Volumes のアプリケーション バンドル (ベータ版)**: VDI デスクトップ内で使用するコンテナ化されたアプリケーションです。
- **App Volumes の User Writable Volumes (ベータ版)**: ユーザーの個人データ、カスタムのインストールされたアプリケーション、及びプロファイル情報用のコンテナ化されたディスク スペースです。
- **User Environment Manager**: ユーザー設定を管理するためのスタンドアロンのアプリケーションです。
- **クラウド監視機能 (ベータ版)**: 招待制でのみ提供され、ゲスト仮想マシンのパフォーマンスと統計情報をキャプチャ及び表示するために使用します。

1.1 サービス ポータル

サービス提供には 4 つのセルフサービス コンソールが含まれます:

- **My VMware Account Management Console (以下「My VMware™」)** は、単一アカウントの下にある全ての VMware 製品ライセンス及びサポートのサブスクリプション ステータス、統合ナビゲーション、インシデント管理、閲覧及び管理へのアクセスを提供します。
- **VMware Horizon Cloud Management Console (以下「コンソール」)**: Horizon Cloud の消費と管理用の主要インターフェイスであり、ドメイン バインディング、イメージ管理、デスクトップのプロビジョニング、エンド ユーザーの権限、及び同一のサインオンにおける多要素認証が含まれます。
- **VMware Horizon Cloud Desktop Portal**: デスクトップ及び公開アプリにアクセスするエンド ユーザー用の、主要 Web インターフェイスです。このインターフェイスは、HTML5 に

よるブラウザー ベースのアクセスを提供します。ユーザーは、自分のデスクトップやアプリにアクセスするためにこのポータルを使用する必要はありません。Windows、Mac、Linux、iOS、Android、及びサード パーティ製のさまざまなシン クライアントやゼロ クライアント経由での使用に対応した、VMware Horizon View クライアントを使用します。

- **VMware Horizon Cloud Helpdesk Portal (ベータ版)**： 管理者向けのウェブ インターフェイスであり、コンソールへのアクセス、仮想マシンの健全性チェック、リモート アシスタント、使用状況の傾向、及びカスタム イメージのアップロード機能などの、高度なプロトタイプ機能を備えています。ヘルプデスク ポータルは、サポートなしで設定されるベータ機能として提供されます。詳細については、サービス条件を参照してください。

サービス提供は、Horizon Cloud のデスクトップ ポータルの代わりに、またはそれに加えて、エンドユーザーのポータルとして機能するサービスとして、VMware Identity Manager (vIDM) のポータルと統合できます (vIDM は別途購入する必要があります)。vIDM SaaS もまた、VMware Workspace ONE のサービス提供の一部です。

VMware は、組織の管理者に、プログラムによるリソース管理のための Horizon Cloud のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) へのアクセスも提供します。

1.2 追加情報

技術文書及びトレーニング

主な概念を使用例とともに示すオンラインヘルプ、スタート ガイド、及び主要なオブジェクトの利用ガイドを、コンソールからご利用いただけます。

リーガル条件

Horizon Cloud の使用は、以下で入手できるサービス条件の対象となります。

www.vmware.com/jp/download/eula/horizon-cloud-hosted-terms-of-service.html

注： サービス条件第 1.5 条で説明されているとおり、「ベータ版」として提供されるサービス提供内の全ての機能は、(1) 本番環境での使用を目的としておらず、(2) VMware によるサポート提供の義務は伴わず、無償で提供され、(3) 「現状のまま」提供され、(4) 全てのサービス レベル コミットメントを除外し、(5) いかなる種類の補償、保証、または条件なしで提供されます。一部のベータ サービスは招待制でのみ提供される場合があります。一部のベータ サービスは非常に早期の技術プレビューまたはプロトタイプである場合があり、ベータ版として使用するために提供される場合の形式で製品化されるとは限りません。ベータ サービスに関する詳細と可用性については、VMware のエンド ユーザーコンピューティング (EUC) のセールス エンジニアまたは営業担当にお問い合わせください。

2. サービス業務

以下では、Horizon Cloud を提供する際の VMware の役割及び責任を概説しています。特定の役割及び責任は、お客様が負うものとして識別されていますが、本書に記載されていない役割または責任は、サービス提供に関して履行されず、またはお客様が責任を負うことはありません。

2.1 サポート

VMware Horizon Cloud には、アカウントやデスクトップ/アプリケーションの可用性に関してお客様が報告した問題のサポートと、Horizon Cloud の導入を支援する追加サービスが含まれています。VMware のサポート責任を果たすために、サポートは米国及び米国以外の両方から提供されます。

2.2 サービス プロビジョニング

VMware は、以下のプロビジョニング サービスを提供します：

- 契約したリソース プールをサポートするために必要とされるサービス コンポーネントの実装 (物理サーバー、物理ストレージ、物理ネットワーク デバイス)。
- デフォルトのパブリック IP アドレスなどの初期ネットワーク リソースの提供。
- デスクトップ モデル (メモリー、処理、プライマリ ストレージ、及びネットワーク) 及び Hosted Apps Server のための、最初のキャパシティ リソースの提供。
- Horizon Cloud のネットワークから (お客様の社内ネットワークへ) の、VPN やその他の専用接続による、安全なポイントツーポイントのネットワークの相互接続 (バックホール) の有効化。お客様のデータセンターから VMware のデータセンター内にある VMware のアクセスのポートへの専用接続は、お客様のキャリアや通信プロバイダーから別途購入する必要があることにご注意ください。VMware のアクセスのポートからお客様のテナント ネットワーク (サービス提供内など) への Direct Connect は、VMware から別途購入する必要があり、追加の月額料金が発生します。
- VMware により承認済みの 60 GB (Professional Desktop) のイメージ最大 10 個を、現在のイメージ カタログから提供。
- 認定されたユーティリティ サーバーの仮想マシンの、VMware のテナントのクラウド環境へのインストール (付録 A の「使用制限」をご覧ください)。
- App Volumes 及び User Environment Manager を使用するための、ネットワーク共有のユーティリティ サーバーの提供 (注： アドオンのストレージの購入が必要です)。
- セルフサービスのトレーニング ビデオへのアクセスの提供。
- 管理コンソールとデスクトップ ポータル の最大 2 時間の詳細説明。

お客様は、以下のプロビジョニング サービスについて責任を負います：

- サイト間のネットワーク接続を確立するための企業リソースの支援の提供。
- Active Directory のドメイン バインディングの完了。
- イメージ テンプレートのカスタマイズ。

- デスクトップ、セッション、ネイティブ及び RDSH のアプリケーション プールの作成と、ユーザーへの割り当て。
- Windows クライアント OS のライセンス (当てはまる場合、適用されるライセンス契約の遵守)。
- イメージ テンプレートまたはデプロイされた仮想マシンへのカスタムまたはサードパーティー アプリケーション及びオペレーティング システムのインストール及び構成。
- App Volumes のアプリケーション バンドルの作成。
- User Environment Manager の構成とサポート。
- ユーティリティ サーバーの構成とサポート。
- Horizon Cloud のテナントによって使用可能な NTP サーバーの構成とサポート (全てのネットワーク トラフィックがお客様の企業ネットワーク経由でルーティングされる、ゼロが 4 つのネットワーク ルーティグ (0.0.0.0) を使用している場合)。

2.3 災害対策とディザスタ リカバリ

VMware は、災害対策とディザスタ リカバリに関して以下のサービスを提供します:

- Horizon Cloud インフラストラクチャのための日常的バックアップなどのデータ保護 (VMware が所有及び運営する管理及びユーザー管理インターフェイスなど)。
- Horizon Cloud インフラストラクチャのためのデータ及びインフラストラクチャ復元 (VMware が所有及び運営する管理及びユーザー管理インターフェイスなど)。
- お客様が管理する資産 (お客様がプロビジョニングした仮想マシンやイメージなど) に対して、VMware はバックアップやリカバリを提供しないことにご注意ください。

お客様は、災害対策とディザスタ リカバリに関して以下のサービスに対する責任を負います:

- Horizon Cloud 仮想マシンまたはストレージ デバイスにアクセスまたは保存されたデータ及びコンテンツのための日常的なバックアップなどのデータ保護、構成設定等。
- お客様の Horizon Cloud アカウントにアクセスまたは保存された資産に関するデータ、コンテンツ、仮想マシン、構成の復元。

2.4 監視

VMware は、監視に関して以下のサービスを提供します。

- Horizon Cloud インフラストラクチャ、インフラストラクチャ ネットワーク、トップレイヤー 管理及びユーザー管理インターフェイス、コンピューター処理、ストレージ、ネットワーク ハードウェアの可用性、容量及びパフォーマンスの監視。VMware はまた、デスクトップ モデルの割り当ての使用率とデスクトップの状態を、サービスの概要レベルでお客様に提示 します。

お客様は、監視に関して以下のサービスについて責任を負います。

- Horizon Cloud のテナント インフラストラクチャ内でデプロイまたは管理されている 資産の監視。これには、ゲスト OS の内部、アプリケーション、ゲストの内部ストレージの 使用状況、専用の接続/VPN、またはアプリケーションの脆弱性などが含まれますが、 これらに限定されません。

2.5 インシデント及び問題管理

VMware は、以下に関するインシデント及び問題管理サービス（例えば、検知、重要度分類、記録、エスカレーション、サービス再開など）を提供します：

- Horizon Cloud サーバー、ストレージ、ネットワーク デバイスなど、VMware が直接、管理的及び/または物理的なアクセス及び制御を有するインフラストラクチャ。
- Horizon Cloud コンソールなどの、VMware がお客様に管理上のアクセスと制御を提供するサービス ソフトウェア。
- 以下の場合の VMware が提供したオペレーティング システム テンプレート：
 - 公開されたテンプレートにアクセスできない
 - 公開されたテンプレートを修正しないとプロビジョニングに使用できない
 - 公開されたテンプレートが最初の起動時にエラーを起こす
 - テンプレート検索の際に大幅な停止または過剰な遅延が生じる
 - 公開されたテンプレートの構成が仮想マシンとハイパーバイザーの相互運用に影響を与える
 - 時刻同期問題 (NTP) がある
- 以下の場合の App Volumes の資産：
 - Application Stacks をプロビジョニングできない
 - Application Stacks をランタイムで使用できない
 - User Writable Volumes をランタイムで使用できない

お客様は、以下に関するインシデント及び問題管理（例えば、検知、重要度分類、記録、エスカレーション、サービス再開など）について責任を負います：

- VMware の管理下にあるお客様のアカウント設定（ドメイン、2 要素認証）。
- 仮想マシン、App Volumes のアプリケーション バンドルと User Writable Volumes、User Environment Manager、デプロイをカスタマイズしたアプリケーションやサードパーティーのアプリケーション、カスタムのオペレーティング システムやユーザーがデプロイしたオペレーティング システム、ネットワークの構成設定、及びユーザー アカウントなどの、ユーザーがデプロイ及び構成した資産。
- オペレーティング システム自体またはそれに含まれる機能もしくはコンポーネントなどのオペレーティング システム管理。
- VPN 接続設定。
- ユーザーがデプロイした仮想マシン、App Volumes のコンポーネント、User Environment Manager、カスタムのアプリケーションやサードパーティーのアプリケーション、お客様のデータベース、お客様でインポートまたはカスタマイズしたオペレーティング システム、またはお客様でデプロイ及び管理したその他の資産で Horizon Cloud Console、Horizon Cloud Desktop Portal、または Horizon Cloud のサービス提供に関係のないもの、のパフォーマンス。
- VMware が制御権や管理権を直接持たないその他全てのもの。

2.6 変更管理

VMware は、以下の変更管理要素を提供します:

- Horizon Cloud Administration Console 及び Horizon Cloud のサービス コンポーネントの健全性と可用性を維持するための処理と手順。メンテナンスとダウンタイムの詳細については、VMware Horizon Cloud のサービス レベル アグリーメントをご覧ください。
- Horizon Cloud Administration Console 及び Horizon Cloud のサービス コンポーネントに関連する新たなコードのバージョン、ホットフィックス、及びサービスパックをリリースするための処理と手順。

お客様は以下について責任を負います:

- 仮想マシン、App Volumes のアプリケーションバンドルと User Writable Volumes、User Environment Manager、オペレーティングシステム、カスタムのアプリケーションやサードパーティーのアプリケーションに対する変更の管理、及びお客様が制御権を持つ一般的なネットワークの変更の管理。
- VMware Horizon Cloud コンソールやユーザーのポータルで提供され、お客様に最高レベルまでの権限が付与される、セルフサービスの機能の管理。これには、仮想マシンとドメインの機能、App Volumes の機能、バックアップの管理、及び一般的なアカウント管理などが含まれますが、これらに限定されません。
- 計画的または緊急のメンテナンスが必要な場合の、VMware との協力。

2.7 セキュリティ

Horizon Cloud のエンド ツー エンド セキュリティは、VMware とお客様の間で共有されます。VMware は、単独の物理的、論理的及び管理レベルの制御を有する側面のサービス提供に対するセキュリティを提供します。お客様は、管理レベルのアクセスまたは制御を有する側面のサービス提供について責任を負います。VMware とお客様との間の責任の主な領域は以下に概説しています。

VMware は以下を実現するために、商業上の合理的な努力をするものとします:

- **物理セキュリティ:** VMware は、Horizon Cloud が格納されているデータセンターを物理的なセキュリティ侵害から保護します。
- **情報セキュリティ:** VMware は、単独の管理レベルの制御を有する Horizon Cloud を提供するために使用される情報システムを保護します。
- **ネットワーク セキュリティ:** VMware は、お客様がネットワークを変更するために制御、許可またはアクセスを有する時点まで情報システムを含んだネットワークを保護します。
- **セキュリティ監視:** VMware は、単独の管理レベルの制御を有する Horizon Cloud を提供する際に使用される基盤インフラストラクチャ サーバー、ストレージ、ネットワーク、情報システムに関わるセキュリティ イベントを監視します。この責任は、お客様が本サービス提供の側面を変更するために制御、許可またはアクセスを有した時点で停止します。

- **パッチ適用及び脆弱性管理：** VMware は、対象システムにとって重大とみなされるパッチの適用など、本サービス提供を行うために使用するシステムを維持します。VMware は、本サービス提供を行うために使用するシステムの重大なリスク領域を浮上させるために日常的な脆弱性検査を実施します。重大な脆弱性は適時に対処されます。

お客様は以下について責任を負います：

- **情報セキュリティ：** Horizon Cloud 上でお客様によってデプロイまたはアクセスされる情報システム、データ、コンテンツ、またはアプリケーションに関して適切な保護を確保すること。これは、あらゆるレベルのパッチ適用、セキュリティ フィックス、データ暗号化、アクセス制御、お客様の内部、外部またはサードパーティー ユーザー等に付与された役割及び許可等を含みます。
- **ネットワークセキュリティ：** お客様が管理レベルの制御権を持つネットワークのセキュリティ。これは、有効なファイアウォール ルールの維持、事業を営むためのみに必要な通信ポートの開放、無差別アクセスのロックダウン等を含みます。
- **セキュリティ監視：** セキュリティ イベントのうち、Horizon Cloud アカウントとは無関係であるか、仮想マシン、オペレーティングシステム、アプリケーション、データ、またはコンテンツに関連しているか、脆弱性スキャン ツールによって検出されるか、またはお客様による参加が必須ではあるが他の VMware セキュリティ プログラムでは提供されていないコンプライアンスプログラムや認定プログラムで必要とされるもの全てについての、検出、分類、及び修復。
- **セキュリティ侵害を受けたデスクトップ：** セキュリティ侵害を受けたデスクトップと、それに関連する問題の解決。VMware のインフラストラクチャ及び事業活動を保護するために、侵害されたデスクトップが検出された場合、VMware は、デスクトップまたはカスタマーアカウント全体を停止する権利を留保します。

2.8 イメージ テンプレート

VMware は、お客様が、お客様の Horizon Cloud 環境にデプロイする、サポートされている仮想デスクトップのイメージ テンプレートのカタログを提供します。このようなテンプレートのデプロイメントと使用には、以下で入手できるサードパーティー条件 (<http://www.vmware.com/content/dam/digitalmarketing/vmware/en/pdf/support/vmware-horizon-cloud-hosted-third-party-terms.pdf>) が適用されます。VMware は、管理コンソールでこれらのテンプレートを利用できるようにする前に、テンプレートを提供し、品質のテストを行い、ウイルス チェックを実施し、セキュリティパッチをインストールします。VMware はまた、これらのカタログ化されたテンプレートを随時、保守し、更新します。お客様は、お客様が使用することを選択した仮想デスクトップのイメージテンプレートのデプロイ及び構成、関連ライセンスの有効化ならびに当該ライセンス条件の遵守について責任を負います。

VMware のサードパーティー ライセンサーに対する VMware の法的義務を遵守するために、お客様は、本サービス提供以外のインストールまたは使用のために特定のテンプレートまたは特定のテンプレートのインストールされた形式のエクスポート、ダウンロード、または削除は認められていません。デスクトップのイメージ テンプレートのライセンスの詳細については、サードパーティー条件をご覧ください

お客様は、自身のイメージテンプレートに含まれるソフトウェアをデプロイ及び使用する法的権利を有する限り、当該テンプレートを実装またはインポートすることができます。

VMware によって提供されるテンプレートのうち、使用頻度が少ないもの、期限切れのもの、またはサポートが終了しているものは、随時削除される可能性があります。

2.9 テンプレートのアップロード

Horizon Cloud はカスタム テンプレートに対応しています。全てのテンプレートは OVF (Open Virtual Machine Format) を使用する必要があります。お客様は、VMware と連携してカスタムテンプレートをアップロードできます。移行が完了すると、VMware は受信したテンプレートをお客様のアカウントにマウントします。その後、イメージ テンプレートとして使用できるようになります。また、Horizon Cloud Helpdesk Console の一部としてベータ サービスで提供されている、セルフサービスのイメージのアップロード機能も使用できます。

3. 事業運営

本項では VMware Horizon Cloud の注文、拡張、更新、中断及び終了の各プロセスについて要約します。

3.1 注文及び請求

サブスクリプションの注文

- サービス提供の初回注文には、付録 A に詳細に記載されているとおり、単一のサービス提供のインスタンス (Service Identifier あるいは SID) に対して、主要な指定ユーザーライセンスまたは同時接続ユーザーライセンス、Standard Desktop Capacity、サポート、IP アドレス、及びインターネットの帯域幅のコンポーネントが含まれます。初回購入によりデフォルトの請求関係が定められ、契約期間中のその SID の全ての取引に適用されます。たとえば、初回注文が VMware 認定リセラーを介して行われた場合、SID に関するその後の支払は全て、当該リセラーを介して行われます。この請求関係は更新時に変更できます。
- サービス提供の注文時には、(E メールまたはオンラインのアカウントの構成ポータルへのリンクによって) VMware がお客様に提供する、プロビジョニングの詳細なワークシートへの記入が必要となります。お客様が提供した情報は、注文をプロビジョニングするために必要となります。お客様は、注文を送信してから 10 営業日以内に、ワークシートを完了させて返却する責任を負います。サブスクリプションの期間と請求期間は、(i) サービスがプロビジョニングされた日、または (ii) 注文日から 60 日後 (プロビジョニングのワークシートを完了させたかどうかに関わらず) の、いずれか早い方に開始します。お客様が完了したワークシートを提出しない場合は、当社は商業上の合理的な方法で注文をプロビジョニングします。その場合、サブスクリプション期間は、期間の開始から 1 年後に延長なしで終了します。VMware は、単独の裁量により請求期間の開始を延期することがあり、そのような場合は E メールでお知らせいたします。
- 追加のハード ディスク ストレージなどの追加のキャパシティやサービスは、初回注文時、またはサブスクリプション期間中いつでも My VMware ポータルからご購入いただけます。当該追加サービスには追加の条件及び料金が適用されます。このような注文の契約期間は、初回注文に合わせて調整されます。
- 追加のキャパシティやサービスを契約期間の終了までに随時注文することで、キャパシティに対してアカウントを変更できます。
- VMware 認定リセラーへの SID に関する変更は、VMware に問い合わせることで更新時に行われます。
- サービスのキャパシティを削減する場合は、サブスクリプションの更新時に VMware と調整する必要があり、削減されたサービス提供のキャパシティに対して新たに注文する必要があります。しかし、削減されたサービス提供の注文に関連付けられたキャパシティが、その時点のワークロードを維持するために必要なキャパシティよりも少ない場合は、お客様が超過したキャパシティをリリースして、VMware がそれを再利用するまで、VMware は超過したキャパシティに対してその時点の価格に基づいた請求を続けます。削減の注文は、サブスクリプションの更新日の少なくとも 30 日前に VMware に提出する必要があります。サブスクリプション期間が 12 か月未満の時点で削減を注文する場合は、サブスクリプションの更新日の少なくとも 5 日前に VMware に提出する必要があります。

請求

- お客様が直接 VMware からサービス提供を購入される場合、各請求期間が始まってから 30 営業日以内に注文された全サービスについて請求します。VMware 認定リセラーを介してサービス提供を購入される場合、リセラーは、お客様とそのリセラーの間で交わした相互合意に基づき、お客様に請求します。
- プラン料金は、付録 A に定められているように、その時点の請求期間に応じて VMware により請求されます。ただし、お客様が前払サービス提供の SKU を選ばれた場合は例外とし、注文されたサブスクリプション期間について請求されます。サービス提供が請求期間全体について提供されない場合、当該期間の料金は、(a) サービス提供が最初に提供された日から請求期間末まで、または (b) 請求期間の開始から請求期間内のサービス提供の最終日まで、それぞれに応じて比例配分されます。

3.2 アドオンのキャパシティ

アドオンのキャパシティ（追加の Standard Desktop Capacity やストレージなど）は、新たな要件や要件の拡張に従い、随時購入できます。

- 追加のデスクトップのキャパシティ及びストレージは、My VMware ポータルから、または VMware か VMware 認定リセラーへ注文書を発行することで追加できます。
- アドオンのキャパシティやサービスのサブスクリプション期間は、SID の主要なサブスクリプション期間と同時に終了するように設定されます。
- アドオンのデスクトップのキャパシティによってボリューム階層が上がった場合、SID の残りの期間にユニットごとの価格引下げが月次請求に対して適用されます（該当する場合）。前払サブスクリプションの場合、ボリューム階層が上がることによるユニットごとの価格引下げの払戻しはありません。ユニットごとの価格引下げは、ボリューム階層が上がった後で追加された月次、年次及び前払サブスクリプションについて、アドオンのデスクトップキャパシティに対して適用されます。

3.3 更新

VMware は、サブスクリプション期間終了に際し、SID を更新しない権利を留保します。VMware が更新しない場合、当社は、お客様にサブスクリプション期限の終了の 30 日前に通知します。各 SID の更新オプションは、My VMware の管理ポータルを使用して選択できます。

自動更新（デフォルト設定）

本第 3.3 条の規定を除き、各 SID は、現在の構成及び既存のサブスクリプション発注期間を使用して自動的に更新します。その時点で最新の SKU 及び価格は、適用価格表に基づいて、その更新期間に適用されます。お客様は、My VMware ポータル (<http://my.vmware.com>) 内で SID の更新オプションを変更することで、自動更新を中止することもできます。更新オプションを変更できる期限は、現在の SID のサブスクリプション期間最終日の 30 日前までです。

期間末にサブスクリプション サービスの変更

お客様が更新方法を「修正する」に選択すると、SID サブスクリプション期間が終わる前に通知を受け、お客様の更新オプションについて協議します。更新方法設定として「修正する」を選択し、SID の設定を My VMware ポータル (<http://my.vmware.com>) で変更して新たな発注書を発行することにより、サービス提供の構成を変更したり、また該当する場合、お客様のリセラー関係を変更したりすることもできます。お客様が下記に記載する該当する最終期日までに現在の SID プロファイルを変更しない場合、または新規サービス提供の発注書を新たに VMware または（該当する場合）お客様の VMware 認定リセラーに発行しない場合、あるいはその両方の場合、お客様の既存の SID はその時点の構成のまま自動的に更新されます。お客様がサービス提供を VMware 認定リセラーを通じて購入した場合、手動による更新が、お客様がその特定の SID のリセラー関係を選べる唯一の方法となります。更新オプションを変更できる期限は、現在の SID のサブスクリプション期間最終日の 30 日前までです。

サブスクリプション期間の終了

My VMware ポータル (<http://my.vmware.com>) 内で SID の設定を「取り消す」に変更することで、既存の SID のサブスクリプション契約を終了できます。このオプションが設定されると、お客様のサービス提供へのアクセスは SID サブスクリプション期間満了時に終了します。契約終了のオプションを選択できる期限は、現在の SID のサブスクリプション期間最終日の 30 日前までです。

3.4 停止及び再使用可能性

- 支払遅延、またはサービス条件に定めるその他の理由により SID が VMware によって停止されている間、VMware は全ての SID へのアクセスを制限し、SID のパブリック IP アドレス間の全てのトラフィックを遮断します。VMware は、問題が解決されるまで、またはサービスが終了するか解除されるまで、SID を構成及びデータをそのままにして保持します。
- SID の再使用可能性は、停止に及んだアカウントの問題が解決次第直ちに開始され、サービス提供へのアクセス及び IP アドレス上のトラフィックが復旧されます。

3.5 契約解除

- 契約の期限満了、解除、取消またはその他の理由による SID の完全な終了により、結果として当該環境へのアクセスの永久喪失、アカウント サービスの中断並びに VMware 社内のデータ保存方針に従った当該環境、構成、及びデータの削除が行われます。
- 契約が終了した SID のデータを、VMware が当該 SID の契約終了日を越えて保存することはありません。

3.6 契約の中途解除

Horizon Cloud の当初期間が 12 か月以上の月次払いのサブスクリプションは、中途解除の対象となります。Horizon Cloud の当初期間が 24 か月以上の年次払いのサブスクリプションは、中途解除の対象となります。前払サブスクリプションは対象とはなりません。基盤となる主要なサブスクリプションが契約の中途解除の対象である場合は、アドオンも中途解除の対象となります。契約の中途解除は、該当するサブスクリプション期間の最初の 3 か月が経過してから、かつ VMware に事前に通知した場合のみ有効です。お客様は、有効な終了日現在の残余サブスクリプション期間について、12 か月の期間ごと（またはその一部）にサブスクリプション料金の 1 か月に相当する料金（アドオン料金も含む）も支払わなければなりません。以下に例を示します。

有効な終了日現在、 残余サブスクリプション期間（月）	中途解除手数料総額	対象の プラン
12 か月未満	契約サブスクリプション料金の 1 か月に相当する 料金（アドオン料金を含む）	月次
12 か月から 24 か月未満	契約サブスクリプション料金の 2 か月に相当する 料金（アドオン料金を含む）	月次 年次
24 か月から 36 か月未満	契約サブスクリプション料金の 3 か月に相当する 料金（アドオン料金を含む）	月次 年次

お客様が終了を希望する SID に必要な通知をする場合、My VMware ポータル (<http://my.vmware.com>) のサポート リクエストに記入して、VMware Global Support and Services チームに連絡してください。

お客様は 30 日から 60 日前に事前通知をしなければなりません。終了（お客様の SID の最終有効日）は、お客様の次回サブスクリプション請求期間の最終日に有効となります。

- 例えば、お客様のサブスクリプション請求期間が毎月 15 日に終了する場合（お客様の請求日と違う可能性もありますので、ご注意ください）、5 月 15 日まで有効の SID を終了するためのお客様の当社への通知は 4 月 15 日までとなり、4 月 16 日に通知されると、SID は 6 月 15 日に終了されます。

付録 A – 注文

本サービス説明書の付録 A では、お客様が初回注文やその後の注文でご購入いただけるコンポーネントについて説明します。

定義:

「Application Stacks」または「アプリケーション バンドル」とは、VDI セッションにアクセスするユーザーに割り当てられるコンテナ化されたアプリケーションをいいます。

「帯域幅」とは、VMware のインターネット サービス プロバイダーを使用し、お客様の Horizon Cloud から公共のインターネットをつなぐネットワーク接続性をいいます。帯域幅は、お客様が購入したサービスのクラスによってデータが転送または受信されると消費されます。

「請求日」とは、VMware が当該サービス提供について定期的に請求する日をいいます。請求日は別途の表示がなければ、月次に発生します。

「請求期間」とは、サービス提供の使用に対してお客様に請求されている期間をいいます。請求期間は、別途の指示がなければ、月次でお客様の SID のサービスの提供方法に関連します。

「専用デスクトップ」とは、デスクトップに対するユーザーの権限や、そのデスクトップのオペレーティング システムに対してセッションごとにユーザーが行ったあらゆる変更を保持するデスクトップをいいます。

「デスクトップ モデル」とは、コンピューティング、メモリー、ストレージ、及び帯域幅のキャパシティのバンドルをいい、複数の Standard Desktop Capacity によって構成され、デスクトップとしてインスタンス化できます。たとえば、デスクトップ モデルは Standard Desktop Capacity と比較して 2 倍のリソースを持つ場合もあります。

「コア コンポーネント」とは、パブリック IP アドレス、サポート、及び 10 個のイメージ テンプレート用のストレージを含むデスクトップ モデルをいいます。

「流動デスクトップ」とは、セッションごとにいかなる変更も保持しないデスクトップをいいます。

「Graphical Workstation Desktop Capacity」とは、コンピューティング、メモリー、ストレージ、vGPU メモリー、及び帯域幅のキャパシティが固定されたバンドルをいい、デスクトップとしてインスタンス化できます。

「イメージ テンプレート」とは、管理コンソールで変更でき、仮想デスクトップの作成に使用されるマスター イメージをいいます。

「IOPS (アイオプス)」とは 1 秒あたりの I/O 処理数をいい、ハード ディスク ドライブ (HDD)、ソリッドステート ドライブ (SSD)、ストレージ エリア ネットワーク (SAN) などの、コンピューターのストレージ デバイスの特性を示すために使用されるパフォーマンス測定です。

「IP アドレス」は、パブリック インターネットからの接続に使用されます。

「LUN」とは、コンピューター ストレージにおいて、論理ユニットを特定するために使用される論理ユニット番号であり、ファイバ チャネルや iSCSI などの SCSI をカプセル化する SCSI プロトコルまたはストレージ エリア ネットワーク プロトコルによってアドレス指定されるデバイスです。

「NAT」とは、ある IP アドレス空間をほかの IP アドレス空間へと再マッピングする方法です。これは、インターネット プロトコル (IP) のデータグラムのパケット ヘッダーにあるネットワーク アドレスの情報を、そのパケット ヘッダーがトラフィックのルーティング デバイス間で転送されている間に修飾することで行われます。

「プラン料金」は、お客様が購入することを決定したサービス提供のコンポーネントであり、サブスクリプション期間中は、使用に関係なく繰り返し発生します。この料金は本サービス説明書の第 3.1 条の定めに従い、その時点の請求期間について請求されます。

「公開アプリケーション」とは、リモート サーバーで実行されているが、ローカルで実行しているかのように、ローカル ユーザーのデバイスでアクセス及び使用されるアプリケーションをいいます。仕組みとしては、アプリケーションの画面がユーザーのローカルのデバイスにストリーミングされ、ユーザーの操作がリモートアプリケーションにストリーミングされます。

「Standard Desktop Capacity」とは、コンピューティング、メモリー、ストレージ、及び帯域幅のキャパシティが固定されたバンドルであり、デスクトップとしてインスタンス化できます。主要な注文は、以下で定義されるとおり、多数の Standard Desktop Capacity によって構成されます。

「ストレージ」には、お客様が購入したサービスのクラスを通して表面化する、ブロック レベルの仮想マシンのキャパシティが含まれます。ストレージは、以下に定義した単位でご注文いただけます。ストレージは、主要なオペレーティング システム及びアプリケーションのためにのみ使用されます。

「サポート」とは、VMware によって提供されるサービスであり、<https://www.vmware.com/jp/support/policies/saas-support.html> で説明されています。

「ターミナル サービス」(Windows Server 2012 以降ではリモート デスクトップ サービス (RDS) として知られています)とは、Microsoft Windows のコンポーネントであり、ユーザーがネットワーク接続を経由してリモート コンピューターや仮想マシンを制御できるようにします。

「サードパーティーライセンス」とは、サードパーティーソフトウェアのライセンスを意味し、それらのライセンスは、サービス オプション (いずれもサービス カタログ他を介して) としてお客様に利用可能なものです。

「User Writable Volumes」は、App Volumes の機能によって個々のユーザーに割り当てられる、特殊な VMDK (仮想マシン ディスク) ファイルであり、通常はユーザーがインストールしたアプリケーション、ユーザー データ、及びユーザーの設定 (オプション) が含まれます。

コア及びアドオンのコンポーネントの注文

Horizon Cloud With Hosted Infrastructure のサブスクリプションは、(i) コア SKU 及び (ii) アドオンの SKU の、2 つの SKU のカテゴリーによって構成されています。各サブスクリプション アカウントには 1 つのコア SKU を含める必要があり、残りの SKU はアドオンとなります。

Horizon Cloud に関しては、コア SKU はユーザー ライセンスの SKU であり、特定の期間 (1、12、24、または 36 か月間) の、指定ユーザーまたは同時接続ユーザーのサブスクリプション ライセンスのいずれかとなります。ユーザー ライセンスは、サービス提供内の 1 個のテナントのアカウントにおいて、VDI や RDSH のワークロードにアクセスできる固有のユーザー (指定) の数または同時接続のユーザーセッション (同時接続) の数を制御します。ユーザー ライセンスの SKU は、このサービス提供、またはオンプレミスのインフラストラクチャのサービス提供を備えた Horizon Cloud のいずれかで使用できます。このサービス提供内で使用するライセンスの数は、デプロイメント時、または今後のアドオンの購入時に VMware に通知する必要があります。

アドオンの SKU は追加のユーザー ライセンスの数量や、SDC、GDC、ストレージ、及びネットワーク オプション (Direct Connect など) などのクラウドのキャパシティの SKU 用となることがあります。アドオンの SKU のサブスクリプション期間は、関連するコア ライセンスの SKU と同じです。コア SKU よりも後に購入した場合、それらはコア SKU の期限が切れる日に同時に期限切れとなります。

これはあくまで一例ですが、新たなお客様の注文は以下のようになります：

- 1 コア 同時接続ユーザー ライセンス (50 ユーザー)
- 5 アドオン 同時接続ユーザー ライセンス (10 ユーザー) (つまり、50 人の追加ユーザー)
- 200 アドオン Standard Desktop Capacity ユニット
- 3 アドオン 1 TB のアドオンのストレージ

コア及びアドオンのコンポーネントが特定のサブスクリプション期間で注文されています。各コンポーネントは、月ごとに請求され支払う、または前払のサービス提供のサブスクリプションを注文した場合、一括で請求され支払うことができます。1個のコア ライセンスの SKU は、テナント インスタンスごとに注文する必要があります。たとえば、3 個のテナント (西海岸の本番環境、東海岸の本番環境、及び東海岸のステージング環境) を持つお客様は、各テナントに 1 個ずつ、最低 3 個のコア ライセンスの SKU が必要となります (SKU は、データセンター レベルではなく地域レベルで定義されることにご注意ください)。ある地域に 1 つまたはそれ以上のデータセンターが存在する場合があります。たとえば、あるお客様が米国地域に 2 つのデータセンターのデプロイを計画している場合、2 つの米国のコア SKU を購入する必要があります。

Standard または Graphical Desktop Capacity と共に購入した場合は、各テナントには次の標準のオプションが付属します：

- IP アドレス： 管理コンソール及びデスクトップ ポータル/ブローカーにアクセスするための 1 個のパブリック IP アドレス
- 帯域幅： 各アカウントには、注文したデスクトップ モデルから合算したデスクトップのピーク帯域幅の合計と同等の、統合された帯域幅の容量が提供されます¹。リモート サイトの帯域幅を計画するお客様のために、各モデルについて予想される平均の帯域幅も提示されます。
- サポート： 年中無休のプロダクション サポート

Standard Capacity Desktop のモデル

デスクトップやリモートアプリケーションの仮想マシンをプロビジョニングするには、使用するデスクトップモデルを決定する必要があります。これは、CPU、メモリー、及びハードディスクが、それらの仮想マシンにどれくらい割り当てられるのか、ならびに Soft3D などの潜在的な高度なオプションの可用性を決定します。インスタンス化された各仮想マシンは、以下のとおり 1 つまたはそれ以上の Standard Desktop Capacity (SDC) ユニットを消費します。

¹ 例：50 台の Value Desktop と 50 台の Professional Desktop を含むアカウントでは、合計で 125 Mbps の統合された帯域幅を、全てのアカウントのデスクトップで使用できます

デスクトップ モデル	Value	Professional	Premium	Performance	Hosted Apps Server
vCPU	1	2	4	8	8
vRAM (GB)	2	4	8	16	16
vHD (GB)	30	60	120	240	240
IOPS	20	40	80	160	160
平均帯域幅 (Kbps)	100	500	500	500	500
コアのサイズ (例：50) あたりの ピーク帯域幅 (Kbps)	500	2,000	2,000	2,000	2,000
Soft3D の対応	いいえ	はい	はい	はい	いいえ
ワークロードの種類	VDI	VDI	VDI	VDI	公開デスクトップや アプリ
Windows 7、8 の クライアント OS	はい	はい	はい	はい	いいえ
Windows 10 の クライアント OS	いいえ	はい	はい	はい	いいえ
Windows Server OS	はい	はい	はい	はい	はい
Standard Desktop Capacity	1	2	4	8	8

購入した Hosted Apps Server の合計容量がこのサービス説明書に記載された仕様以上である場合は、サービスの向上とパフォーマンスの調整のため、VMware は Hosted Apps Server の仕様と数量を変更する権利を留保します。混在した RDSH サーバーの仕様は 1 個のテナントでサポートされていないため、RDSH サーバーの古い仕様をプロビジョニングしたお客様は、新たな仕様を利用するためにプールを再構築する必要があります。新たな仕様と同等のリソース（コンピューティング、メモリー、ストレージ）を、終了した仕様でプロビジョニングするために購入した場合、新たな仕様の SKU を購入して古い仕様をプロビジョニングできます。

注：Soft3D は互換性のあるゲスト OS のバージョンでのみ使用できます。vCPU のパフォーマンスは各仮想マシン内で制限されません。vCPU は、vCPU あたり 350 Mhz の平均消費量に基づいて、ホスト

密度を決定するための要因として使用されます。最適な統合パフォーマンスを実現するために、個々の仮想マシンは vCPU あたり 350 MHz 以上にバーストできます。これは、影響を受ける仮想マシンにおいて、潜在的なリソースの競合と、エンド ユーザーの使用環境のパフォーマンス低下に繋がるおそれがあります。十分なリソースが全ての仮想マシンに供給されるよう、適切なデスクトップモデルに合わせて仮想マシンのサイズを正しく設定する必要があります。

Graphical Workstation Capacity のデスクトップ モデル

Graphical Workstation の仮想マシンをプロビジョニングするには、使用するモデルを決定する必要があります。これによって、CPU、メモリー、及びハード ディスクがどれくらい仮想マシンに割り当てられるのかが決定されます。インスタンス化された各仮想マシンは、以下のとおり1つまたはそれ以上の Graphical Workstation Capacity (GWC) ユニットを消費します。

デスクトップ モデル	ProfessionalWS	PremiumWS	PerformanceWS
vCPU	4	8	16
vRAM (GB)	16	32	64
vHD (GB)	120	240	480
vGPU (GB)	2	4	8
IOPS	80	160	320
平均帯域幅 (Kbps)	500	500	500
コアのサイズ (例: 50) あたりのピーク帯域幅 (Kbps)	2,000	2,000	2,000
ワークロードの種類	VDI	VDI	VDI
Windows クライアント OS	はい	はい	はい
Windows Server OS	はい	はい	はい
Graphics Desktop Capacity	1	2	4

vGPU がどのように仮想マシンに関連付けられているのかによって、お客様は使用する予定のワークステーションのモデルを (テナントのデプロイメント時に) 指定して、GWC を 16 個の GDC ユニット

単位 (各グラフィック デスクトップの SKU は 16 個の GDC ユニットを提供します) でこれらのモデルに割り当てる必要があります。この構成への変更は、サポート リクエスト経由で提出できます。

ゲスト仮想マシンの互換性の詳細については、付録 C をご覧ください。

アドオンのストレージ

App Volumes などの特定の Horizon Cloud の機能を使用するには、アドオンのストレージを購入する必要があります。アドオンのストレージは 1 テラバイト単位で購入可能で、1、2、4、8、及び 12 TB の LUN に割り当てられます。計画と予算に考慮するため、App Volumes と共に使用することを目的としたアドオンのストレージは、同じサイズのストレージ LUN を必要とします。これは、ファイル共有 (またはその他のユーティリティ) サービスに使用するアドオンのストレージには適用されません。アドオンのストレージのパフォーマンスは、ギガバイトあたり 1.5 IOPS です。

手数料及び料金

お客様が直接 VMware に注文される場合、VMware は、その時点に適用される VMware の価格リストに記載の料金、または発注書に記載された別途の料金を、VMware との合意に基づいてお客様に請求します。お客様が VMware 認定リセラーに注文する場合、当該リセラーが、その価格リストまたは別途のお客様との合意に基づいて請求します。

既存の SID にサービスまたはキャパシティを追加する注文は、その SID が予約された方法に基づいて VMware またはリセラーから発注され、SID サブスクリプション期間の終了まで、共通の条件に従います。特に、リセラーが既にお客様に SID について請求をしている場合、追加のサービスまたは容量についてはそのリセラーを通じて発注され、お客様が支払を同意した価格及び他の当該条件は、そのリセラーとの合意に基づきます。

使用制限

ユーティリティ サーバー

Horizon Cloud のユーティリティ仮想マシンは、デスクトップ及びターミナル サービスのアプリケーションと共に使用することを目的としており、VDI 及びリモートアプリケーションサービスの提供機能を直接サポートします。仮想マシン インスタンスをユーティリティ サーバー (ドメイン コントローラー、Active Directory サーバー、DHCP リレー、ファイルサーバーなど) として使用することを希望するお客様は対象外とします。アンチウイルス及び OS のライフサイクル管理ツール (SCCM など) も、限られた数量で使用できますが、取引上の性質や、デスクトップ仮想マシンのパフォーマンスに対して潜在的に悪影響があるため、推奨されません。サービス提供の整合性を保護するために、VMware は、ユーティリティ サーバーが使用できるリソースを制限したり、(追加の SDC ユニットを消費することで) お客様にユーティリティ サーバーの仕様をアップグレードすることを要請したり、最終的にはテナント環境からユーティリティ サーバーを削除する権利を留保します。ユーティリティ サーバーには次の管理上の制限があります:

- 既存のカタログ イメージやお客様が提供したイメージを使用して、最初に VMware によってデプロイされます。
- 全てのユーティリティ サーバーは、既存のデスクトップ モデルの仕様内に収める必要があります。

- 全てのユーティリティ サーバーは、基盤となるデプロイ先の ESX ホストのバージョンと互換性をもつ必要があります。ESX ホストをアップグレードして OS の互換性を維持することは、お客様の責任です。
- ユーティリティ サーバーは、単一のネットワーク インターフェイス カード (NIC) でのみデプロイできます。
- ユーティリティ サーバーあたりの E:/ ドライブの最大サイズは 12 TB です。
- E:/ ドライブは 1、2、4、8、及び 12 TB のサイズでのみ割り当て可能です。
- ユーティリティ サーバーは、お客様の環境の内部からかまたはヘルプデスク ポータル経由のいずれかでアクセスできます。
- ユーティリティ サーバーは、リモート プロトコル経由、またはサーバー上で実行中の組み込みの Web アプリケーション経由で仮想マシンに直接アクセスする、承認されたお客様の管理者によってのみ管理できます。
- ユーティリティ サーバーの、ネットワーク、可用性、負荷管理、インフラストラクチャのパフォーマンス、またはビジネス継続性に関するデプロイメント構成をカスタマイズすることはできません。
- 許可されたユーティリティ サーバーの数：
 - 最大 200 SDC ユニット：2
 - 最大 1000 SDC ユニット：5
 - 1000 SDC ユニートを追加購入するごとに、1 個のユーティリティ サーバーが追加されます。
- ユーティリティ サーバーでは次のことはサポートされていません。
 - ロード バランシング、NAT、またはカスタムのファイアウォールルール：ユーティリティ サーバーは、クラウドのデスクトップ デプロイメントに対応するアプリケーションを実行することを目的としています。パブリック インターネット 接続や高度なインフラストラクチャの構成を必要とするサーバー アプリケーションをサポートするには設計されていません。

購入した SDC の割り当てから使用することなく、テナント環境内の 1 台の仮想マシンをユーティリティサーバー (Professional Desktop の仮想マシンの仕様) として使用できます。無償のユーティリティサーバーや追加のユーティリティ サーバーの増加は、ユーティリティ サービスに使用した CPU とメモリーのリソースの合計を減算することで、購入したデスクトップの割り当てに加算されます。これは、購入した仮想マシンの合計の、全てのデスクトップ数として表現されます。

承認されたユーティリティ サーバーの機能を除いて、サーバーベースのアプリケーションやトランザクション アプリケーションの使用はサポートされておらず、パフォーマンスとユーザー エクスペリエンスに影響を及ぼすおそれがあります。Horizon Cloud の仮想マシン環境では、暗号化されたハード ディスクは使用できません。安全なディスク サービスが必要な場合は、ユーザー データをデータセンターにリダイレクトすることを検討するか、別の IaaS クラウドのインスタンスを購入するか、ユーザー データ用に暗号化されたファイル サーバーをデプロイする必要があります。

負荷テスト

お客様による負荷テスト (自動または手動によるログインのストレス テストなど) は禁止されており、VMware による承認と協力が必要です。お客様がこのようなテストの実施を希望する場合は、パフォーマンスとユーザー エクスペリエンスへの影響を最小限に抑えるために、サポート チケットを提出して、VMware と協力してテストを計画しなければならないものとなります。

SMTP のポート 25

ポート 25 を VMware 提供のインターネット接続から出力することは禁止されています。TCP ポート 25 (通常は SMTP に使用) はフィルタリングを出力することになっており、使用は例外なく禁止されています。VPN または Direct Connect 上のポート 25 は使用できます。

ネットワーク管理

お客様は、Horizon Cloud の Edge (ルーター) アプライアンスへはアクセスできず、VMware が設定及び管理する、ファイアウォール及びネットワーク アドレスの変換ルールを構成したりカスタマイズしたりすることもできません。

専用接続のアクティブ/パッシブの冗長性 (BGP 経由のみ) はサポートされますが、アクティブなリンクとバックアップのリンクを選択する必要があるほか、アクティブなリンクがダウンした場合に、リンクが自動的にフェイルオーバーするように構成する必要があります。

お客様は、テナント環境で使用できるデスクトップ ネットワークを 10 個まで要求できます。

付録 B – 提供される機能と、別途購入可能な機能の概要

Horizon Cloud の内容

- デスクトップ、ホスト型アプリ サーバー及びイメージ（注文した SKU に基づく）用のインフラストラクチャ
- アカウントあたり最大 10 個までの 60 GB の VMware のイメージ テンプレート
 - Microsoft Windows 7、Windows 8.1、Windows 10、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2 から選択
- アカウントの設定時の、管理コンソールの詳細説明 1 回（2 時間）
- オプション：
 - SKU：
 - ユーティリティ サーバー、User Environment Manager、及び App Volumes の資産で使用する追加のストレージ（1 TB 単位）
 - 専用接続のブリッジ用の Direct Connect
 - 追加の IP アドレス
 - 含まれるサービス：
 - ユーティリティ サーバーとして機能する 1 台の仮想マシン（ドメイン コントローラー、DHCP リレー、ファイル サーバーなど）
 - Professional Desktop の仕様に合わせてサイズ設定
 - 追加のユーティリティ サーバーを作成できますが、そのユーティリティ サーバーが使用する vCPU/メモリーの合計と同等のデスクトップの割り当てを消費します。
 - Horizon Cloud のデータセンターの所在地の設定につき、1 回の VPN とネットワークの構成

Horizon Cloud のコアまたはアドオンの SKU には含まれておらず、VMware のプロフェッショナル サービスとして別途購入可能：

- オンボーディング サービス
 - 高度なオンボーディングの支援（SKU：CON-HZAIR-ADVON）
 - 適切な POC（事前検証）と最大 50 人のエンド ユーザーの本番環境のデプロイメントに推奨
 - Horizon Cloud の本番環境の統合とデプロイメント サービス（PSO のカスタム見積り）
 - 適切な POC（事前検証）と 200 ～ 2000 人のエンド ユーザーの本番環境のデプロイメントに推奨
- プロジェクト管理
- ユースケースの評価と定義
- デスクトップ エンジニアリングとイメージ管理
- その他のプロフェッショナル サービスの要請

サービス提供の設定完了が必要となる場合がある、サード パーティから購入可能な追加サービス：

- お客様のデータセンターから VMware のデータセンターまでの専用接続サービス（1 か所につき最大 4 接続をサポート）
- サービス提供のデータセンター内から Horizon Cloud のテナント インスタンスへの Direct Connect の設定

付録 C – Horizon Cloud のゲスト OS の互換表

Horizon Cloud は、Horizon Cloud 内でホストされた仮想マシン上で、次の Windows のオペレーティング システムの使用をサポートします。

オペレーティング システム	パッチ/ SP	32/64 ビット	その他の種類/ スペック	VDI/RDSH	インスタント クローンへの 対応	App Volumes への対応
Windows 7	ベース/ SP1	両方	Professional/ Enterprise	VDI	はい	はい
Windows 8.1		64 のみ	Professional/ Enterprise	VDI		
Windows 10		64 のみ	Professional/ Enterprise	VDI	はい	はい
Windows 10 AE		64 のみ	Professional/ Enterprise	VDI	はい	はい
Windows Server 2008 R2	SP1	64 のみ	データセンター エディション	両方		
Windows Server 2012 R2		64 のみ	Standard、 Data Center	両方		

サポートされている言語は英語及び日本語です。サポート言語パックはフランス語、カナダ フランス語、及びドイツ語です。

付録 D – Microsoft 社のライセンスの推奨

以下はあくまで推奨事項です。ライセンスの要件と制限については、Microsoft 社のライセンスのディストリビューターにご確認ください。

Horizon Cloud は、Horizon Cloud ソリューションを最大限活用するために必要なゲスト OS のライセンスは提供していません。Horizon Cloud Desktop と Hosted Apps Server の運用に必要な全ての Microsoft 社のライセンスは、お客様が選んだ Microsoft 社のライセンスのディストリビューターから入手できます。

Microsoft Windows 7、8.x、及び10のOSのライセンスを受けたゲスト仮想マシンには、Microsoft Virtual Desktop Access (VDA) のサブスクリプション ライセンスか、Windows 用の Microsoft Software Assurance が必要です。

VDI デスクトップ、RDSH サーバー、またはユーティリティ サービスのいずれかに使用される Windows Server の仮想マシンには、Windows Server OS のライセンスを使用する必要があります。VDI 及び RDSH のワークロードについては、120 台の Value Desktop、60 台の Professional Desktop、30 台の Premium Desktop、15 台の Performance Desktop、または 15 台の Hosted Apps Server それぞれについて、2つのプロセッサまたは 24 コア（お客様の Windows Server のバージョンに適したいずれか）に対して1つの Windows Server Datacenter Edition を使用することを推奨します。購入の規模を問わず、各ホスト クラスターについて、高可用性のために確保されているホストが1つあります。たとえば、お客様が100台の Standard Desktop Capacity ユニットを購入した場合、そのキャパシティを1つのホストで使い切ってしまうと、Horizon Cloud は2つのホストをデプロイします。結果として、最大12個のホストのライセンスそれぞれについて、高可用性のためのホスト用に同じ種類とキャパシティの追加のライセンスを含める必要があります。また、Windows Server の VDI の仮想マシンまたは Hosted Apps Server にアクセスする各ユーザーについて、リモート デスクトップ サービス (RDS) のカスタマー アクセス ライセンス (CAL) 1個を使用する必要があります。数台の Windows Server 仮想マシンのみをユーティリティ サービスとして使用する予定のお客様は、最低2つのホストに対して十分なライセンス (Standard または DC エディション) を用意してください。Microsoft 社からライセンスを取得する必要があるホスト及び仮想マシンの数の詳細については、お客様のデプロイメント サービスの担当者にお問い合わせください。

Horizon Cloud がサポートするハードウェア及び Microsoft 社のライセンス ポリシーは変更される場合があるため、最新の推奨内容については Horizon Cloud のカスタマー サービスにご確認ください。